日刊建設通信新聞（2018年５月８日付７面掲載）

【オリエンタルコンサルタンツ　野崎　秀則代表取締役　　瀬戸酒造店　森　隆信代表取締役

社会価値創造企業としての地域活性化　地域再生・ブランド向上へ酒蔵を再始動】

社会価値創造企業としての地域活性化

地域再生・ブランド向上へ酒蔵を再始動

社会インフラ整備の多様な市場で、グローバルにコンサルタント業務を展開しているオリエンタルコンサルタンツは地域の活性化に向け、新たな取り組みを開始した。神奈川県開成町の北部地域に残された築300年の古民家「瀬戸屋敷」の指定管理者として運営を手掛けるとともに、隣接する「瀬戸酒造店」を再生し、自家醸造を再開。地域の美しい自然や豊かな資源を活用した「酒」をはじめ、発酵食品の開発など新たな地域ブランドを創出し、地域に活力と賑わいをもたらしていく。

地域資源の「瀬戸屋敷」を運営管理

江戸時代、旧金井島の名主を代々つとめた瀬戸家が家屋を構えてきた屋敷。2001年に所有者が町に寄付し、町は重要文化財に指定した。オリエンタルコンサルタンツは町が実施した指定管理者の公募に提案、特定され、17年4月1日から3年間、運営維持管理を担う。

オリエンタルコンサルタンツは、2017年10月7日に「cafe hacco」をオープンした。店名は発酵と情報を発信するハコ、2つの意味からhaccoと命名した。コーヒーや足柄茶などの飲み物がメインで、主屋内にも持ち込むことが可能。屋敷内の好きな場所でゆっくりと楽しむことができる。通常は午前11時から午後3時（イベント時などは午後5時）まで営業している。休業日は瀬戸屋敷の休館日と同じ。

オリエンタルコンサルタンツは、神奈川県の未病改善プロジェクトに参画し、瀬戸屋敷をフィールドに東京農業大学醸造科学科と連携して発酵をテーマとした食と社会参加による未病改善の取り組みである「はっこう大作戦」を展開している。

ひな祭りは瀬戸屋敷を代表するイベントの1つ。つるし雛など伝統的な雛人形が一緒に飾られる。特に大久保氏（小田原藩主）の紋の入った屏風は貴重なもので、瀬戸家のご先祖が輿入れの時に持参したものといわれている。

「はじめてきても、まいにちきても、なつかしい」――。屋敷の周辺に田園風景が広がる瀬戸屋敷では、四季折々を通してさまざまなイベントや講座が開催されている。節分や、ひな祭り、端午の節句、七夕など日本の伝統文化に応じた行事や「はたるまつり」「あじさい祭り」「風鈴祭り」など自然を感じられる催し。さらには音楽や撮影会、ものづくりを学べる「あしがり学校」など、さまざまな出来事を体験できる場となっている。

慶応元年創業の「瀬戸酒造店」を再生

オリエンタルコンサルタンツ
野崎　秀則 代表取締役

弊社は2017年4月、開成町の重要文化財であり、300年の歴史を持つ古民家、あしがり郷「瀬戸屋敷」の指定管理を開始しました。これと併せて隣接する「瀬戸酒造店」の再生に向けた事業に着手し、多くの方々の支援・協力によって2018年3月4日に瀬戸酒造店の蔵開きを迎えることができました。

これから瀬戸酒造店は日本酒の醸造を開始しますが、私は運営にあたり、次の3項目に注力していきます。

1つは「使命」です。酒造りを通して皆さまに幸福を届けていきたい。おいしいお酒をつくり、ご賞味いただいて、幸せな気持ちになることが、われわれに求められている役割だと考えています。

2つ目は、「どんなお酒を提供していくのか」です。これをひと言で表現すれば「こだわりのお酒」になります。元々、蔵にあった酵母と地域のお米を使った復刻版「酒田錦」、地域のあじさいから酵母を取り、さわやかな味に仕上げた「あしがり郷」、伝統の技と柔軟な発想で日本酒の可能性を拓く「セトイチ」。このような「こだわりのお酒を届けていきたいと思っています。

3つ目は「酒蔵の目指す将来像」です。開成町で唯一の酒蔵であり、必ず地域の活性化に寄与していかなければなりません。われわれとしても開成町のブランド向上に努力するとともに、これから全国世界へと情報発信していけるようにしていきたいと願っています。

そして、隣接する「瀬戸屋敷」では、神奈川県の未病プロジェクトである「はっこう大作戦」にも参画し、「食品開発」に向けて取り組んでおります。日本酒そして食と、発酵をテーマにさらに地域を盛り上げていく所存です。これからも瀬戸屋敷の取り組みと瀬戸酒造店の民間事業を連携させて相乗効果を生み出し、開成町北部地域の活性化に全力を尽くしてまいります。

慶応元年（1865年）に創業した町唯一の造り酒屋。幕末から続く代表銘柄は「酒田錦」で、最盛期には600石を製造していたが、1980年に自家醸造を断念した。オリエンタルコンサルタンツは地域活性化事業として100%子会社化し、醸造所と井戸を新たに整備した。

あじさい酵母を開発した東京農業大学の穂坂賢醸造科学科教授、芝浦工業大学空き家改修プロジェクトの田中静美代表のほか、県内の酒蔵からも多くの関係者が出席した。

左から氏羽義里神奈川県副知事、府川裕一町長、杉本と石る神奈川県議会議員の来賓3人と、野崎秀則オリエンタルコンサルタンツ社長。蔵開きでは3人が来賓祝辞を述べた後、あじさい酵母の純米吟醸酒で乾杯した。

開成町の「あしがり郷瀬戸屋敷」と「瀬戸酒造店」を拠点に新たな地域ブランドをつくることで、開成町の地域活性化に取り組む

瀬戸屋敷のの「はっこう大作戦」に参加した県立吉田島高校の1年生が杉玉を贈呈した。同校は、都市農業科、食品加工科、環境緑地科の特色ある3科が設けられている。写真は左から野崎社長、森隆信瀬戸酒造店代表取締役。

瀬戸酒造店
森　隆信 代表取締役

弊社は2017年の4月1日にオリエンタルコンサルタンツの子会社となりました。新しく仕込み水の井戸を掘り、醸造所を建て替えて、ようやく「蔵開き」の日（3月4日）を迎えることができました。これまでの皆さまの温かいご支援・ご協力には心から感謝しております。

まず事業を始めるにあたって最初に相談しましたのが、東京農業大学醸造科学科の穂坂賢教授でした。事業計画段階からいろいろとご指導をいただき、弊社のブランドを担う上で大変重要な「あじさいの花」の酵母を生み出していただきました。

設計段階ではオリエンタルコンサルタンツの皆さま、空き家改修プロジェクトとして店を造り替えていただいた芝浦工業大学の皆さまには大変世話になりました。そして募集に応じて来ていただいた杜氏のお2人は本当に職人と呼ぶのにふさわしい真面目で勤勉な方々であり、われわれのイメージを具現化していただくことができました。地域の皆さまからも自慢できる酒を造ってくれと応援していただいております。

これから瀬戸酒造店は、「酒田錦」「セトイチ」「あしがり郷」の3つのブランドを展開していきます。開成町北部の美しい自然、豊かな資源を活用しながら、伝統の技と柔軟な発想で日本酒の新たな世界を切り開くことができる蔵を目指していきたいと願っております。

瀬戸酒造店の酒造りを手掛ける杜氏（とうじ）は小林幸雄さん。長野県南箕輪村で生まれ育ったが、現在は開成町吉田島に在住し、代表銘柄「酒田錦」の復刻や新たな日本酒を生み出していく。小林杜氏は「ぜひ、豊かで、飲む人の喜びとなるような酒を造り、それらの声に応えたい」と意気込む。

「酒田錦」　かつては酒米の栽培が盛んで酒田村と呼ばれていた地域特性を生かし、開成町産の米と、酒蔵に根付いた酵母を使い、幕末から瀬戸酒蔵を代表する伝統の銘柄を復刻した。

「あしがり郷」　開成町の町花であるあじさいの花から抽出した酵母で醸した、田園や広い空、箱根連山の山並みを一望できる開成町の美しい風景をイメージしたさわやかで端麗な味わいになっている。

「セトイチ」　全量小仕込みの子寝な酒造りだからこそできるそれぞれの顔つきの日本酒。味わいの異なる8種類の日本酒をあらゆる酵母と醸造技術を駆使して表現している。

60th Anniversary

株式会社オリエンタルコンサルタンツ　ORICONSUL

本社　〒151-0071　東京都渋谷区本町3丁目12番1号 住友不動産西新宿ビル6号館
TEL.03-6311-7551（代）FAX.03-6311-8011 HP.www.oriconsul.com

北海道支店　〒001-0019　北海道札幌市北区北19条西3-2-16　TEL.011-776-6120
東北支店　〒980-0811　宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービルディング　TEL.022-215-5522
関東支店　〒151-0071　東京都渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル6号館　TEL.03-6311-7851
北陸支店　〒950-0087　新潟県新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟　TEL.025-244-7881
中部支店　〒450-0003　愛知県名古屋市中村区名駅南2-14-19 住友生命名古屋ビル　TEL.052-564-7711
関西支店　〒530-0005　大阪府大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル　TEL.06-6479-2551
中国支店　〒730-0013　広島県広島市中区八丁堀5-7 広島KSビル　TEL.082-223-0030
四国支店　〒760-0023　香川県高松市寿町1-3-2 高松第一生命ビル　TEL.087-821-4012
九州支店　〒812-0011　福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-8 住友生命博多ビル　TEL.092-411-6209
沖縄支店　〒900-0015　沖縄県那覇市久茂地2-12-21 電波堂ビル　TEL.098-860-8403